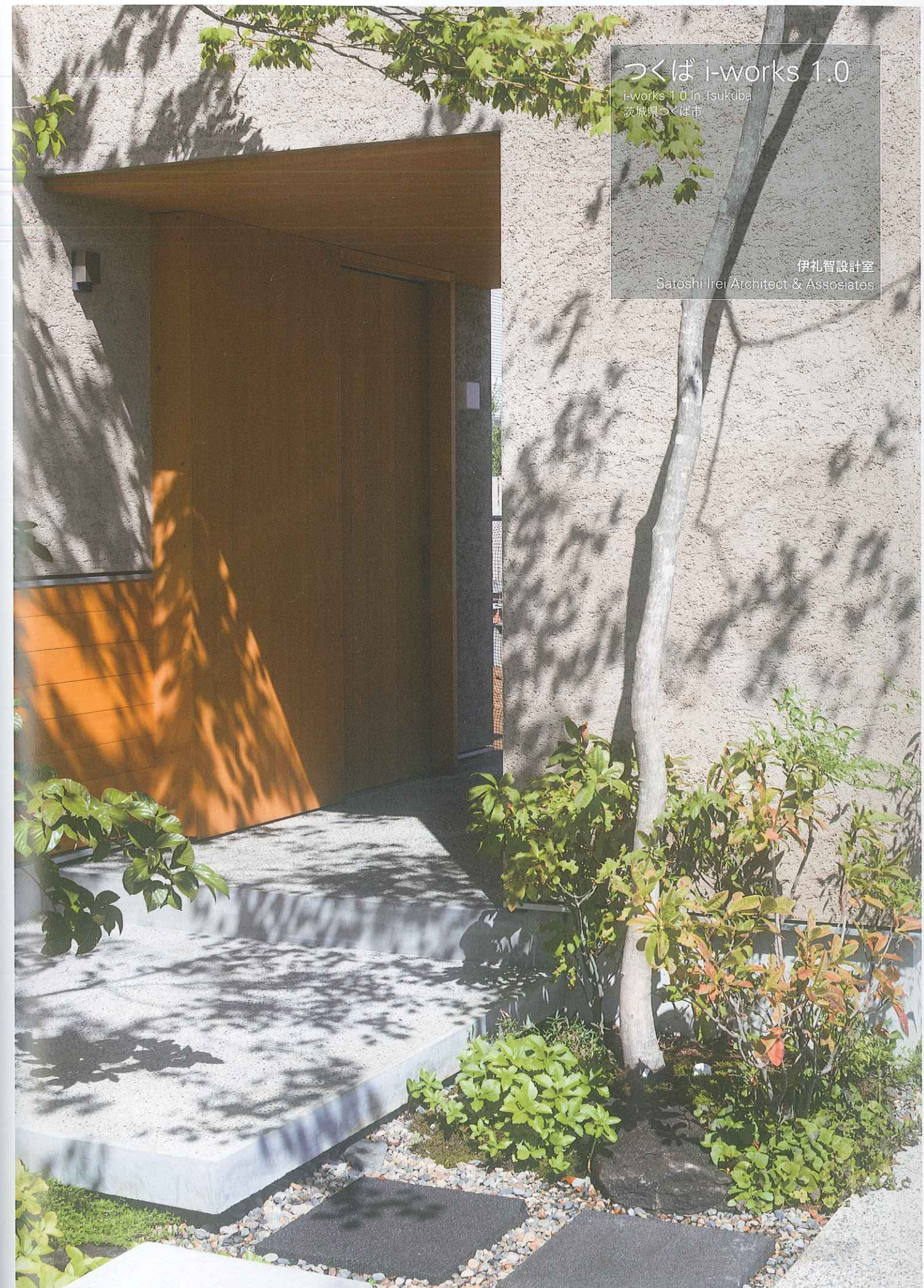




東側外観。「i-works 1.0」は「i-works project」に加盟する、工務店のみ施工可能なパッケージ住宅。基本プランのほか、オプションで決定されている。南に張り出すデッキや軒の出は、敷地によって調整が可能。



つくば i-works 1.0
i-works 1.0 in Tsukuba
茨城県つくば市

伊礼智設計室
Satoshi Irei Architect & Associates

アプローチ。戸袋は205.5mmの厚みに木製引き戸と網戸を納め簡易に設置できるようになっており、単体で商品として販売されている(155頁詳細図参照)。



ダイニングテーブル越しにリビングを見る。南面開口部のアルミサッシはフルオープンできるものを採用し、全開放した時にサッシ枠が見えないように納められている（詳細は154頁参照）。右手のソファはオリジナルデザイン。リビングのレイアウトは本プランを含め3パターンから選べる（151頁参照）。

「i-works project」ができるまで

本計画の前身は「小さな家。計画」(本誌1108)という建築家が考えるプロダクト住宅のプロジェクトである。建築家が設計した図面をもとに、プレカット工場で施工まで手がけることが意図されたものである。しかし、まだまだ住宅は現場でつくり上げるしかないこと、細部の施工の難しさ、請け負うことの責任の重さにプレカット工場が躊躇し、計画は停滞してしまった。

そこで僕はその反省を踏まえて、以前から進めていた「i-works」を別のルートで進めることにした。施工は信頼できる工務店とし、運営をOMソーラー株式会社に委託、ただし、参加工務店はOMの加盟工務店の枠を外してソーラーの使用も任意とした。参加工務店は全国から20社、建材メーカーが6社となり「i-works project」と命名された。プロダクト住宅を展開するというよりも、建築家とメーカー、地域工務店が力を合わせ、標準化された設計を駆使したプレタポルテの家づくりを試みる活動といった方がふさわしい。

省エネと快適さ、意匠や佇まいなど、総合的に品質の高い住宅をリーズナブルなコストで提供する、必要なものはメーカーと共に開発し、施工者と設計を共有し、住宅生産の新しい仕組みを構築できればと思う。

小さく住もうエコハウス

「i-works 1.0」はパッケージ化された小さなエコハウスである。外物置込みで延床面積29.3坪、個室が3部屋、ロフト付き、4〜5人の家族を想定したプラン。壁の断熱はセルローズファイバー 120mmを充填、2階天井面には同じく200mm、さらに屋根下にはネオマフォーム 100mmとしている。サッシは意匠性も考慮して、LIXILのサーモスH、ガラスはPGのLow-EでQ値1.9W/M2K程度、省エネ等級4、耐震等級2、OMソーラークワトロを搭載することでゼロエネルギー住宅となる。小さく住むことは最大のエコなのだ。このプロジェクトを手始めに、今後数タイプ出していく予定である。

一品生産でも量産でもない、プレタポルテの家づくり

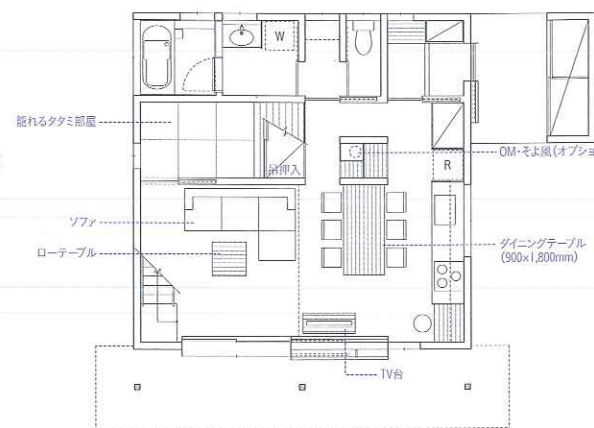
性能とコスト、耐震性能の担保の観点から、本体の設計の変更には基本的に応じないが、内部レイアウトのバリエーションを用意し、住まい手のライフスタイルに対応する。工務店内の設計者が住まい手の要望をある程度取り入れ、敷地にフィットさせるのだ(今回は外構設計も伊礼智設計室)。また「佇まい」も重要なテーマとしていて、小さく建てることで外部を設計(植栽など)する余地を残し、町と家の間をデザインすることを推奨している。そのためには工務店のための設計力向上セミナーも必要だろう。

このプロジェクトはまだ始まったばかりで、設計だけでなく、仕組みや運営も改善に次ぐ改善の真っ最中である。一品生産でなく、量産でもない、プレタポルテだからこそその苦労と楽しみがそこにある。

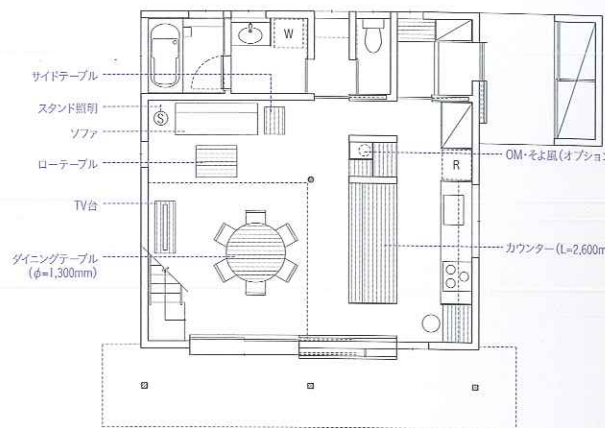
(伊礼智)



オリジナルプラン
(ピンク色の部分が可変可能)



レイアウトパターン1



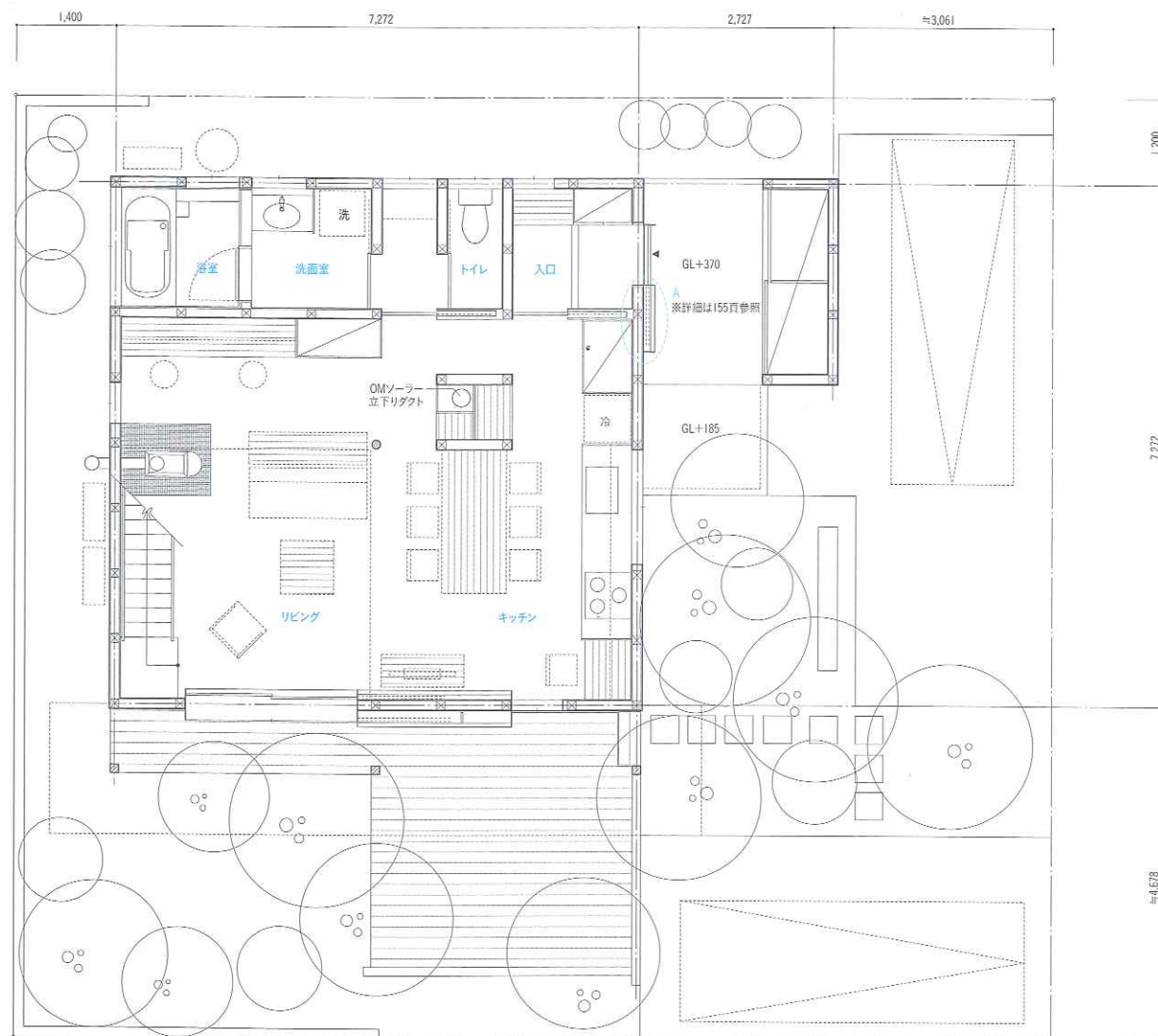
レイアウトパターン2



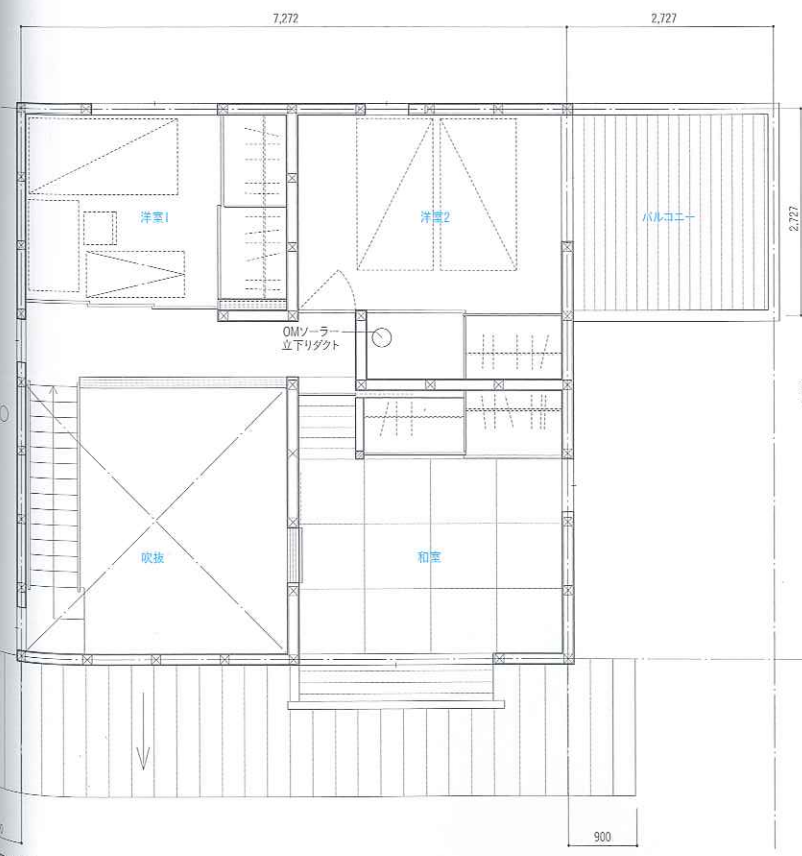
リビング・ダイニング。壁はヴィーナスコート塗装。



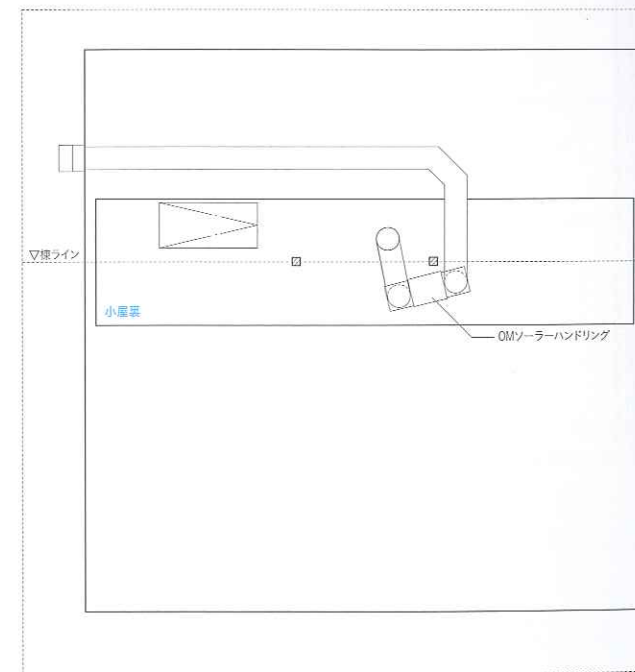
リビングを見返す。暖房は薪ストーブのほか、OMクワトロソーラーにより暖められた空気が床下へ送られ放熱する。



1階平面図 縮尺1:100



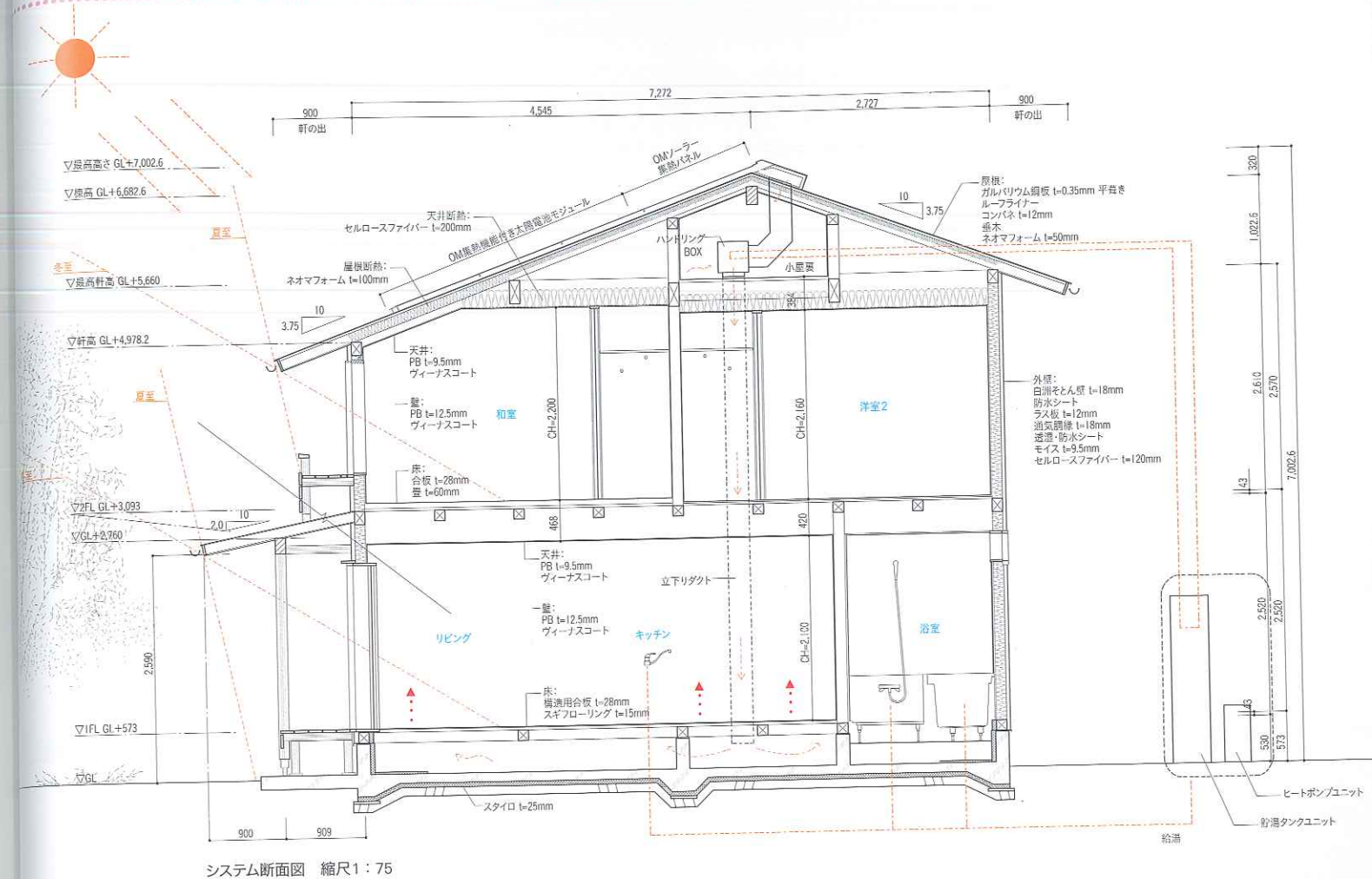
2階平面図



ロフト階平面図



リビング。床はスギフローリングで、天井高は2,100~4,680mm。

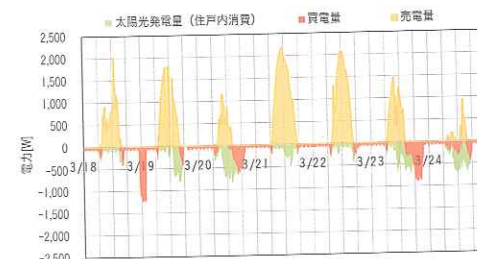
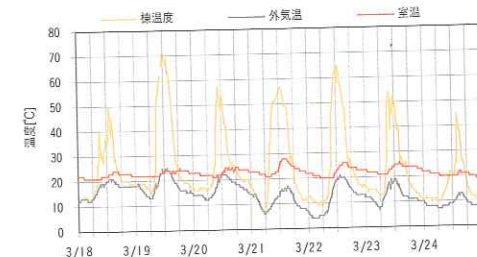


温熱環境を計測データから読み解く

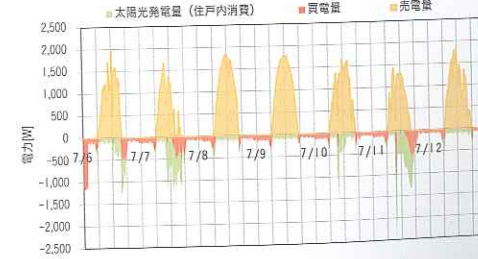
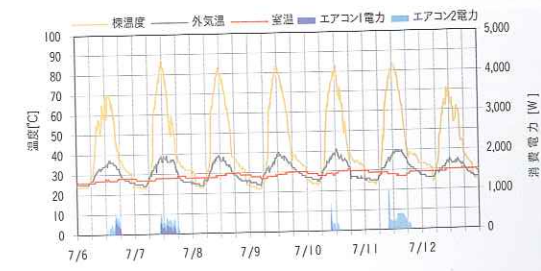
「つくばi-works1.0」では2013年3月の竣工後からデータを取得しているが、まずここでは竣工直後で比較的寒い期間のデータを見てみたい。最寒日の3月21日でも屋根ではピーク温度57℃で集熱されており、エアコンによる補助暖房なしで室内は24時間常に20℃以上をキープしている。住戸内には人がおらず生活時の内部発熱は一般家庭と比較するとほとんどない状態での計測であるが、高い断熱性能と太陽熱集熱のバランスがよく、このような結果となったといえる。今回は春先での計測であるが、これからの冬本番のデータでも十分な性能が発揮されることが期待される。

また、夏期はわずかなエアコン運転であったが最高室温は30℃程度となっていた。梅雨明けの7月の猛暑日のデータであるが、夜間には外気温が下がっていることから、就寝時の窓開けを行うことでより室温を低下させることも可能と考えられる。温暖地では冬の開口部からのダイレクトゲインが重要視される一方で、高断熱化によって夏期に熱がこもり暑い家になってしまうという指摘をされることもある。しかし、適切に日射遮蔽が行われている高断熱住宅では決してそのようなことは起こり得ない。i-worksのデータはそのことを実証している。

データ測定が始まってまだ半年であるが、暖房・給湯に必要な熱や発電に必要な太陽エネルギーを集めており、軒を出し夏期の日射を防ぐことのできる大きな屋根を設けたことで、温熱環境的なバランスの取れた設計であることが分かってきた。



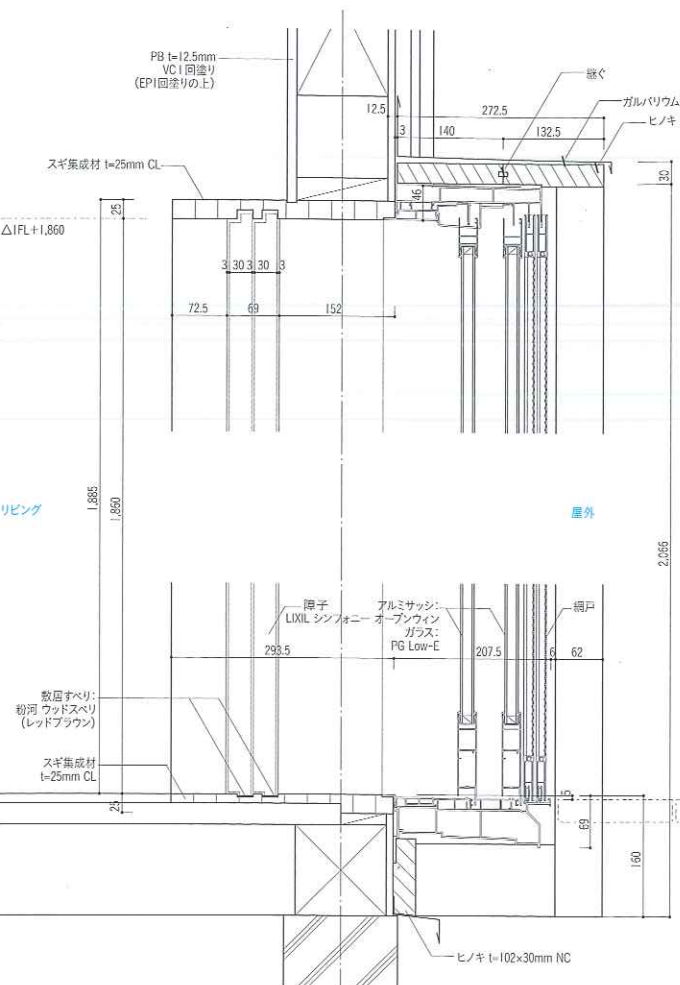
〈2013年3月 測定データ〉
外気温が10℃以下になる時間帯でもOMソーラーのみで室温20℃以上を実現可能



〈2013年7月 測定データ〉
猛暑日でもわずかなエアコン使用で30℃以下の室温を維持し、太陽光パネルによる発電も良好

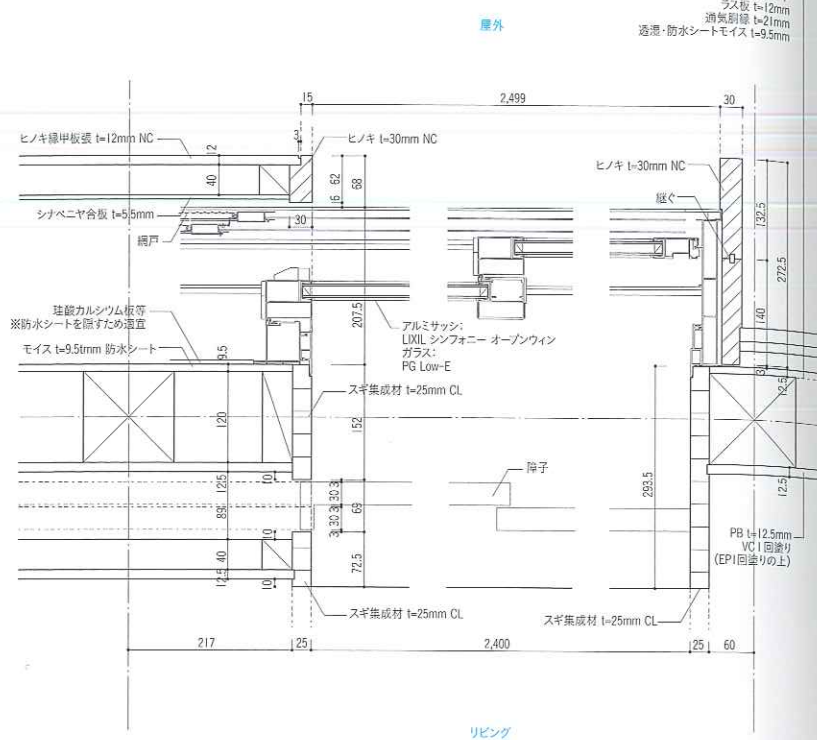


南から見る全景。軒や下屋の高さが抑えられ、開放的な開口部をもつ。屋根にはOMソーラー集熱パネルとOM集熱機能付き太陽電池モジュールを設置。日本的な佇まいのゼロエネ住宅となっている。



リビング開口部断面詳細図 縮尺1:10

右手に南面のリビング開口部を見る。正面キッチンの天井高は2,100mm。



つくば i-works 1.0

所在地/茨城県つくば市

主要用途/専用住宅

家族構成/夫婦+子供2人

設計

伊礼智設計室 担当/伊礼智 一場由美

福井典子 協力/島華子

構造 水田建設 担当/水田昌孝

設備 住宅環境性能コーディネート/

OMソーラー

住宅の計測/東京大学工学部建築学科

前真之研究室

造園 荻野寿也景観設計 担当/荻野寿也

施工

柴木材店 担当/斉藤尚文

大工 湯本建設 担当/湯本富夫(棟梁)

湯本正寿

基礎 藤野ブロック工業 担当/藤野重実

左官 岩崎左工 担当/水野松雄

建具 貝塚建具店 担当/貝塚政利

塗装 木村塗装 担当/木村次男

板金 S.T外装 担当/藤井修司

設備 つくば石油 担当/遠藤和宏

電気 柴電気工事 担当/柴宏二

外構 柴木材店 担当/斉藤尚文

造園 荻野寿也景観設計 担当/荻野寿也

構造・構法

主体構造・構法 木造在来工法

基礎 べた基礎

規模

階数 地上2階

軒高 5,604mm 最高の高さ 7,002mm

敷地面積 190.14 m²

建築面積 66.92 m²

(建蔽率 35.20 % 許容 40 %)

延床面積 98.32 m²

(容積率 51.71 % 許容 80 %)

1階 55.36 m² 2階 42.96 m²

工程

設計期間 2012年4月~2012年8月

工事期間 2012年9月~2013年3月

敷地条件

地域地区 第一種低層住居専用地域

法第22条地域 地区計画区域内

道路幅員 東 6.00m 駐車台数2台

外部仕上げ

屋根/ガルバリウム鋼板 平葺き 壁はぜ葺き

外壁/白洲そとん壁 スチロゴで仕上げ

開口部/木製建具(ユダ木工)

アルミサッシ(LIXIL)

外構/ジャミコン洗い出し 板塀 筑波石

植栽/アオダモ モミジ ヤマザクラ ヤブ

ニッケイ ジューンベリー

内部仕上げ

入口 リビング ダイニング

床/スギフローリング t=12mm

壁・天井/ビナスコート塗装

キッチン

床/スギフローリング t=12mm

壁/タイル t=6mm 貼り

天井/ビナスコート塗装

厨房機器/キッチン特注(設計:伊礼智設計室)

IHコンロ/パナソニック

換気扇/富士工業

シンク・水栓金物/シゲル工業 GROHE

子供室 主寝室

床/スギフローリング t=12mm

壁・天井/ビナスコート塗装

和室



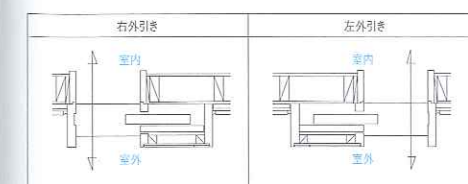
左:右手が玄関。左手が物置。/右:2階和室。開口上部の天井高を1,780mmに抑え、軒を900mm出すことで夏の日射を遮る。開口部下端は床から350mmに設置し腰掛けられる高さにして、バルコニーと一体で利用できるようにしている。



Making points 簡単に設置できる木製引き戸と網戸を納めたアウトセット片引き戸



玄関アウトセット片引き戸(150頁平面図A部)立面図 縮尺1:100



アウトセット片引き戸ヴァリエーション (本作品では右外引きを使用)

床/縁無量 t=60mm

壁・天井/ビナスコート塗装

浴室

床/TOTO ハーフユニットバス

壁・天井/ヒノキ t=15mm 張り

洗面所 トイレ

床/スギフローリング t=12mm

壁・天井/ビナスコート塗装

衛生機器/TOTO

家具/造作

照明/ヤマギワ パナソニック 山田照明

ルイスボールセン MAXRAY

建築物/掘商店 スガツネ ベスト アトム

設備システム

空調 暖房方式/OMクワトロソーラー

薪ストーブ

冷房方式/エアコン

換気方式/第三種換気

給排水 給水方式/公共上水道直結

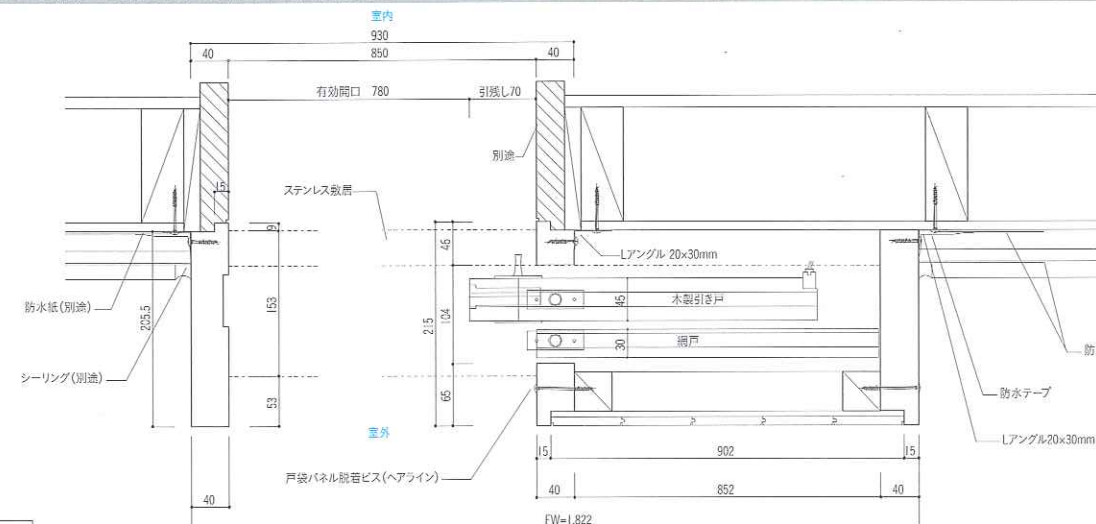
排水方式/公共下水道放流

給湯 給湯方式/エコキュート・ソーラー

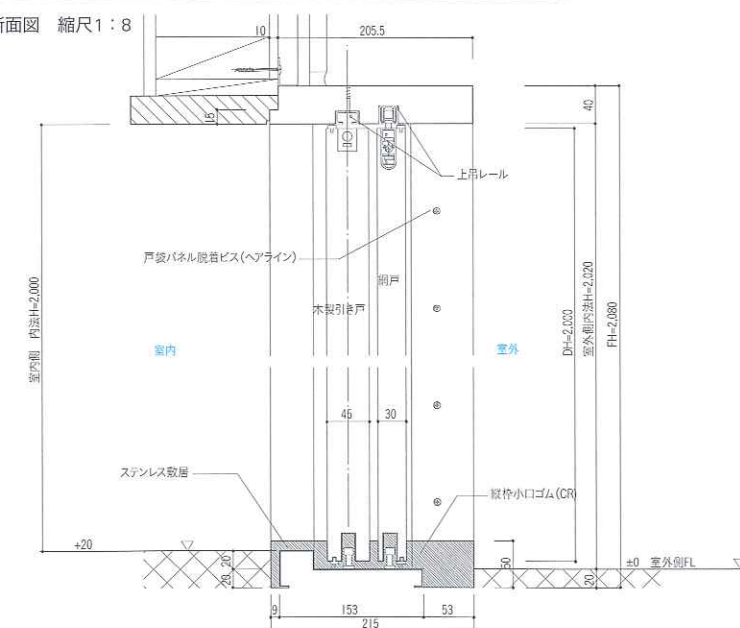
ヒート(OM)

太陽光発電 OMクワトロソーラー

撮影/新建築社写真部



アウトセット片引き戸断面図 縮尺1:8



アウトセット片引き戸断面図 縮尺1:8



伊礼智 Satoshi Irei

1959年沖縄県生まれ／1983年琉球大学理工学部建設工学科卒業／1986年東京藝術大学美術学部建築科大学院修士課程修了／1986～96年丸谷博男＋エーアンドエー／1996年伊礼智設計室設立／現在、日本大学生産工学部居住空間デザインコース非常勤講師／「東京町家 9坪の家」（本誌0510）で2006年エコビルド賞受賞／「東京町家 町角の家」（本誌0610）で2007年エコビルド賞受賞／著者に『オキナワの家』（2004年、インデックス・コミュニケーションズ）、『伊礼智の住宅設計作法』（2009年、編集：新建新聞社 発行：アース工房）、『伊礼智の住宅設計』標準化から生まれる豊かな住まい（2012年、エクスナレッジ）

伊礼智設計室 〒171-0031 東京都豊島区目白3-20-24 tel. & fax. 03-3565-7344
irei@interlink.or.jp http://irei.exblog.jp/

筆者

原聡子（しのはら・さとこ）

58年千葉県生まれ／1983年日本女子大学学院修士課程修了／1983～85年香山アート工／1986年空間研究所設立／現在、日本女子大学教授

田青蔵（うちだ・せいぞう）

53年秋田県生まれ／1975年神奈川大学工学部建築学科卒業／1977年同大学大学院修課程修了／1983年東京工業大学大学院博士課程修了後、同大学平井研究室研究生／85年東京工業大学付属工業高等学校教諭文化女子大学造形学部住環境学科教授、埼玉大学教育学部教授を経て、2009年より神奈川大学工学部建築学科教授／1994年日本建築学会奨励賞、2004年日本生活学会今和次賞、2012年日本生活文化史学会賞受賞／主な著書に『あめりか屋商品住宅』（1987年、住まいの図書館出版局）、『日本の近代住宅』（1992年、鹿島出版会）、『お屋敷拝見』（2003、河出書房新社）、『同潤会に学べ』（2004年、国社）

馬正尊（ばば・まさたか）

58年佐賀県生まれ／1991年早稲田大学理学部建築学科卒業／1994年同大学大学院士課程修了／1994～98年博報堂／1998～2001年早稲田大学大学院博士課程／1998～雑誌『A』編集長／2003年OpenA設立／98年～東北芸術工科大学准教授

海智行（うつみ・ともゆき）

53年茨城県生まれ／1991年英国王立芸術学卒業／1998年筑波大学大学院修士課程修了／1992～97年大成建設設計本部／98年ミigramスタジオ設立／2005～09年慶應義塾大学環境情報学部非常勤講師／010年～日本大学理工学部非常勤講師

紀和子（かも・きわこ）

52年福岡県生まれ／1987年東京工業大学

大学院修士課程修了／1987～91年久米建築事務所／1992年セラヴィアソシエイツ設立／1995年みかんぐみ共同設立／現在、ICSカレッジオブアーツ特認教授、東京理科大学、名古屋工業大学非常勤講師

河合孝（かわあい・たかし）
1958年生まれ／1955年日本大学法学部卒業／1959年武蔵野美術大学建築学科卒業／1959年河合建築入社／一級建築士、二級建築大工技能士、都一級公害防止管理者、宅地建物取引主者

藤村龍至（ふじむら・りゅうじ）
1976年東京都生まれ／2002年東京工業大学大学院修了／2002～03年ペルー・インスティテュート（オランダ）／2003～08年東京工業大学大学院博士課程／現在、東洋大学専任講師、藤村龍至建築設計事務所主宰／2009年「BUILDING K」（『新建築』0808）で第29回INAXデザインコンテスト審査員特別賞受賞／主な著書に『1995年以後一次世代建築家の語る現代の都市と建築』（共編著、2009年、エクスナレッジ）、『3・11後の建築と社会デザイン』（共編著、2011年、平凡社）『アーキテクト2.0ー2011年以後の建築家像』（共編著、2011年、彰国社）、『コミュニケーションのアーキテクチャを設計する』（共著、2012年、彰国社）、『リアル・アノニマスデザイン』（共編著、2013年、彰国社）、『ニッポンのジレンマぼくらの日本改造論』（共著、2013年、朝日新聞出版）『ユートピアはどこへ——社会的制度としての建築家（磯崎新建築論集第6巻）』（編集協力、2013年、岩波書店）

豊川斎赫（とよかわ・さいかく）
1973年宮城県生まれ／2000年東京大学大学院工学系建築学専攻修了／現在、国立小山工業高等専門学校建築学科准教授。工学博士、一級建築士／主な著書に『群像としての丹下研究室』（2012年、オーム社）、

スケールで、倉庫のような、食べ物の貯蓄庫のようなもの（私が見たそれには、たまねぎがたくさん中に吊り下げられていました）が建てていたり、遠くから見る大きな敷地の民家には、防風林が、山からの風が吹く方向にのみ、まさに塀のように立っていたり……。その場所の暮らしに必要とされるものが、独特の美しい風景を生み出して、感動を覚えました。現地の方に聞くと、そういうものはだんだん少なくなっているとのことでしたが、どのような時代になっても、土地の気候風土によってつくり

『丹下健三とKENZO TANGE』（2013年、オーム社）

佐藤英治（さとう・えいじ）
1936年北俣太オハ生まれ／1963年早稲田大学理工学部建築学科卒業／1963～78年東洋熱工業／1972～74年ロスアンゼルス・Ayres and Hayakawa Consulting Engineers／1985年イーエスアソシエイツ設立

小玉祐一郎（こだま・ゆういちろう）
1969年東京工業大学工学部建築学科卒業／同大学助手、建設省建築研究所研究員、部長を経て現在、神戸芸術工科大学教授。大澤良二と共にエステック計画研究所主宰／主な作品に「つくばの家シリーズ」（1984年～）、「高知・本山町の家」（本誌0311）、主な著書に『パッシブ建築設計手法事典』（1983年、2002年改訂、彰国社）、「住まいの中の自然」（1992年、2000年改訂、丸善）、『エコハウジングの勧め』（1996年、丸善）、『地球環境建築のすすめ』（2002年、日本建築学会編 彰国社）

高瀬幸造（たかせ・こうぞう）
1983年神奈川県生まれ／2007年東京大学工学部建築学科卒業／2009年同大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了／2012年同大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了・博士（工学）／2012年～東京大学前研究室特任研究員

江角俊則（えすみ・としのり）
1959年島根県生まれ／1982年工学院大学卒業／2007年江角アトリエ設立／現在、米子工業高等専門学校非常勤講師／2007年「土間の家」で島根建築文化賞戸建住宅部門優秀賞／2010年「安来節芸芸賞（共同設計）」で第12回公共建築賞優秀賞、「スローハウス」（本誌1301）でJIA中国建築大賞

出される、その場所ならではの風景。それが少しでも長くそこにあってくれたらと思う一瞬でした。初日の夕方は、菊竹清訓さんが設計された「東光園」にも訪れました。宿泊はしなかったのですが、まだ実際に営業されているこのホテルにも、時間が経過しても変わらない建築ならではの強さを感じました。内部のお店やインテリアは当時とはだいぶ違う姿になっているようですが、建築の骨格にこれだけの存在感があると、中がいかように変わろうと、建築の空間体験は

（住宅部門）大賞／2011年「松園増改築」でJIA中国建築大賞優秀賞

アタカケンタロウ
1974年埼玉県生まれ／1998年東京藝術大学卒業／2001年同大学大学院修了／2003年アタカケンタロウ建築計画事務所設立／現在、東京藝術大学、芝浦工業大学、武蔵野大学、東京電機大学、京都造形芸術大学非常勤講師／2007年「タカハギハウス」で東京建築士会住宅建築賞受賞、2011年「シャノール研修センター」で日本建築学会作品選奨、2013年「狭山ひかり幼稚園」（『新建築』1106）で日本建築学会作品選奨

土屋貴哉（つちや・たかよし）
1974年東京都生まれ／2001年東京藝術大学大学院修了／現在、阿佐ヶ谷美術専門学校メディアデザイン科、早稲田大学川口芸術学校非常勤講師／主な展示に2002年「Off-Side: Football is in Our Life」横浜美術館、2009年「個展：マイナーチェンジ」switch point、2011年「個展：バランスパラメータ」イムラアートギャラリー東京、2012年「2:46 and Thereafter」Edison Place Galler（ワシントン）

◎本誌10月号の訂正

165頁にて、石黒健太さんのプロフィールに誤りがありました。正しくは下記になります。

石黒健太 Kenta Ishiguro
1978年富山県生まれ／2002年横浜国立大学工学部建設学科卒業／2004年同大学大学院修士課程修了／2004～09年石黒由紀建築設計事務所／2009年～野沢正光建築工房

訂正し、お詫び致します。

高松の住宅

掲載：14-23頁

まこと建設

所在地 大阪府大阪市西区北堀江2-17-8
電話番号 06-6541-4331（代表）
www.makoto-kensetsu.co.jp

COMMENT

1975年に竣工した「双生観」以来、40年近く一緒に仕事をしている。20代後半から30代の若い現場監督に仕事を担当してもらうことが多いが、設計上の難しい要求も真摯に挑戦し、打ち合せの中で解決策を見出し建物をつくり上げる能力と熱意にはいつも頭が下がる。

（安藤忠雄）

礪明 第一期

掲載：24-35頁

河合建築

所在地 東京都板橋区本町28-6
電話番号 03-3961-0004（代表）
members.jcom.home.ne.jp/kwi/

COMMENT

河合建築とは、約10年間の付き合いがある。大工は自社で養成し、正社員として雇用している。したがって職人は思う存分、自分のもっている最良の技を現場で発揮できる仕組みがある。それぞれの大工が高い技術レベルに達している。図面通りつくり込むことに加えて、施工者として強風雨に対する完璧な下地処理の方法や、住宅全般におけるこれまでの施工上の優れた経験を、こころよく設計者に伝えて実行してくれる。それがとてもありがたく、勉強になる。河合学社長の、建主、職人、設計者への心配りのあるダイレクトな発言もとても心地よい。（川口通正）

三層の家

掲載：36-45頁

総組

所在地 東京都豊島区要町1-10-7 2F
電話番号 03-5986-1081（代表）
www.yoshikawano-namazu.com

COMMENT

総組は代表者が大工であり、木工事を得意とする工務店である。この現場は防火地域であることや建主の要望を踏まえて総合的に検討し、型枠コンクリートブロックを用いたRM工法であり難しい。それでも全体の木工事の質に期待して総組に工事全体を依頼した。不慣れな工法であったと思うが、設計者と共に試行錯誤を重ね、工事をまとめてくれた。同時に、子供の専用ユニット（子供小屋）や、家族それぞれの物品を収納する茶箱専用の棚など、この家の収納物に対する扱い方へ優れた理解を示してくれた。伝統建築にも造詣深い工務店ならではの。（中谷礼仁）

風景に沿う部屋

掲載：46-53頁

第一建設

所在地 長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉3348
電話番号 0267-45-5414（代表）
www.dai-1kensetsu.co.jp

COMMENT

近年、軽井沢の物件はすべて第一建設にお願いしている。軽井沢での歴史もあり、昔から建築家との仕事を数多く手がけているので非常に信頼できる工務店である。会社の隣に木材加工場があり、今回は構造材がすべて手刻みだったため実物の材を見ながら打ち合せをしたり、仕上げ材や建具枠の加工などもこちらの要望に快く応えていただいた。軽井沢は事務所から遠方であるが、安心して現場を任せることができ、現場監督や職人さんとのやり取りは勉強になることが多く、毎回現場に行くのが楽しみだった。（稲山貴則）

富里の家 神座の家

掲載：54-65頁

尾崎工務店

所在地 静岡県掛川市下垂木2445
電話番号 0537-24-6678（代表）
www.ozaki-k.co.jp/

COMMENT

静岡のような地方では、われわれ設計事務所の仕事を敬遠される会社もある中で、尾崎工務店は大橋茂夫社長をはじめ、大工として腕を振るった方々から継承される確かな技術力のもと、多くの設計事務所からも信頼、支持されている。現場担当の大石明実さんには、確かな知識に加え、設計側の意図をひとつひとつ丁寧に汲み取っていく女性ならではの細やかさで、精度の高い仕事をしていただいた。（山田誠一）

北上の家

掲載：66-73頁

伸和ハウス水沢支店

所在地 岩手県奥州市水沢区佐倉河字梨田川71-1
電話番号 0197-25-5372（代表）
www.shinwahouse.co.jp

COMMENT

日頃は北海道で仕事をしているため、海を渡る岩手県の現場ははじめて。その距離を感じることもなく終始安心して現場を進められました。東日本大震災の日、現場では躯体工事が進められており、事故もなく無事でしたが、食料とガソリン不足のため一時中断を余儀なくされました。ガソリンがなく身動きが取れない中で、現場担当の佐藤哲郎さんは草刈機のガソリンを自分の車に移し変えてひとりだけ現場の検査などに動き回っていたそうです。佐藤さんのその熱意や工事に関わったすべての職人さんの高い技術によって、シンプルな構成でありながらも複雑で手間のかかる工事を高い精度で完成にこぎつけられました。（澁本幸子）

給田の家

掲載：74-83頁

総組

所在地 東京都豊島区要町1-10-7 2F
電話番号 03-5986-1081（代表）
www.yoshikawano-namazu.com

COMMENT

大学院の後輩ということもあり、今回ははじめてお願いした。まだ若い工務店で、施工図や

工程管理に未熟なところも見られ、合理的な施工手順やディテールの納まりについて、話し合いを重ねていった。そのような弊社の厳しい監理の中、粘り強く付き合ってくれ、最後は立派に竣工させてくれた。（浅利幸男）

扇網の家

掲載：84-91頁

深澤工務店

所在地 東京都国分寺市本多4-2-19
電話番号 0423-25-2621（代表）

COMMENT

アトリエ事務所の仕事実績の多い工務店。優秀な大工さんを抱え、精度の高い仕事をしてくださった。この建物は、平行な面がほとんどなく不整形なうえに、鉄骨と木造の混構造であり、施工の難易度は高かったと思うが、大工さん和他職種の連携で綺麗に仕上げていただいた。（早草睦恵）

浄明寺の家

掲載：92-99頁

安池建設工業

所在地 神奈川県小田原市酒匂5-5-17
電話番号 0465-47-5722（代表）
www.yasuike.co.jp

COMMENT

安池建設工業は小田原・湘南・箱根を中心に著名建築家との協働の実績も多い工務店で、知人からの紹介で今回はじめてお願いした。担当の現場監督は経験豊富で、機能面での的確な知識やディテールのアイデアなどを多くっており、細部にまでこだわり真剣に取り組んで施工にあたっていた。建具工事や大工工事など、意匠的に難しい部分も監督を中心に粘り強く職人らと打ち合せを重ねることで、たいへん仕上がりのよい空間を実現することができたと。（奥野公章 馬場伊都加）

House BG

掲載：100-113頁

徳岡工務店

所在地 大阪府大阪市淀川区新高6-6-18
電話番号 06-6391-1438（代表）
www.tokuokas.co.jp/

COMMENT

大阪市に本社を置き、寺社建築での実績を通じた高い技術力をもつ歴史ある工務店である。中には3代にも渡り個人住宅の施工を依頼されるなど、長い付き合いを大切にしている信頼感に定評がある。今回の建設においても、建主の先代からのお付き合いもあり依頼されている。搬入路が狭い敷地での難しい資材搬入や最適な仮設計画、高い精度が要求される鋼板構造パネルの製作および建方など、徳岡聡一社長自ら現場に出向き、その知見と経験をもって見事にこなしていただいた。特に和室のつくり込みにおいては、京都で調達した素材を扱う貴重な名大工仕事を見ることができ勉強させられた現場である。（土田耕太郎）

白馬の山荘

掲載：114-125頁

池田建設

所在地 長野県北安曇郡白馬村神城22881-4
電話番号 0261-75-2433（代表）
www14.ocn.ne.jp/~ikedak-d/

COMMENT

一見普通のようにでいて一筋縄ではいかない施工であったが、丁寧に意図を汲み取ってくださった。原寸大のモックアップをいくつもつくり、一緒に課題を解決していった。一方で、土地の専門家として、特に厳寒期への細かい配慮をアドバイスしてくれ、よりよい建築になったと思う。竣工後のケアもきめ細かく、安心して別荘の施工をお願いすることができる。（仲俊治）

二棟造りの家

掲載：138-145頁

原島建築

所在地 東京都青梅市東青梅3-4-2
電話番号 0428-22-1373（代表）
www.harashima-kenchiku.com/

COMMENT

社長であり棟梁である原島正行さんは、大工技能が高く古典的な技術者だが、ダンディで蠟燭とした方である。彼は愛車（PTクルーザー／クライスラー）やバン（家族的チームの移動手段）を駆って、フットワークよく現場や事務所を飛び回り、打合せや段取り、指示をひとつひとつ着実に片付ける実務者であり、信頼に足る。いつもリーズナブルなコストで応えてくれるのもありがたい。（藤本隆男）

つくば i-works 1.0

掲載：146-155頁

柴木材店

所在地 茨城県下妻市高道祖4316
電話番号 0296-43-5595（代表）
www.shiba-mokuzai.com/

COMMENT

柴木材は材木屋として昭和42年に創業し、2年後に工務店を始めた。自社の設計施工により、自然素材を使用した家づくりを得意としている。OMソーラーの加盟工務店としてソーラーシステムやパッシブデザインの知見も高く、施工経験も豊富、建築家の複雑な設計をこなす経験と力量もあり（腕のよい大工と建具屋を揃えている）、木造住宅の確かな施工能力をもつ。今年、2代目に代替わりし、これを機に「i-works project」に加わることとなった。工務店の職人堅気な部分を残しつつも、若さと進取の気性に富んでいる。（伊礼智）

集後記

のはじめ、内藤廣さんからの誘いで、中建築賞の審査で中国地方をぐるっと巡り、選対象となっている住宅や建築を見る機会をいただきました。ほぼ車で移動だったので、中地方の広大な自然、宍道湖や大山をはじめ山々を見ながら、出雲大社に代表される、木が宿る土地の不思議な空気を感じての2日となりました。

長、鳥取、広島、岡山と回りましたが、はじめて見た鳥根の民家の建ち方が印象的でした。各沿いの比較的小さな民家には、不思議な